『なかよしさん』

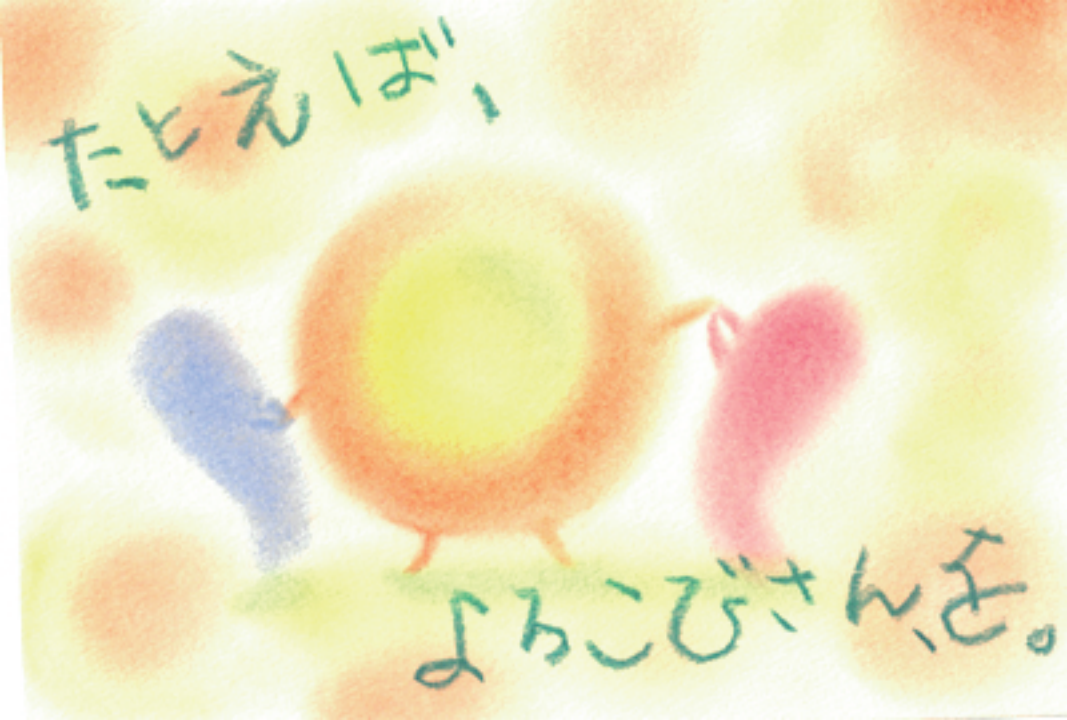
きみと　　ぼくは



ふたりは
ひとって
なかよしさん。

いつも　いっしょ。

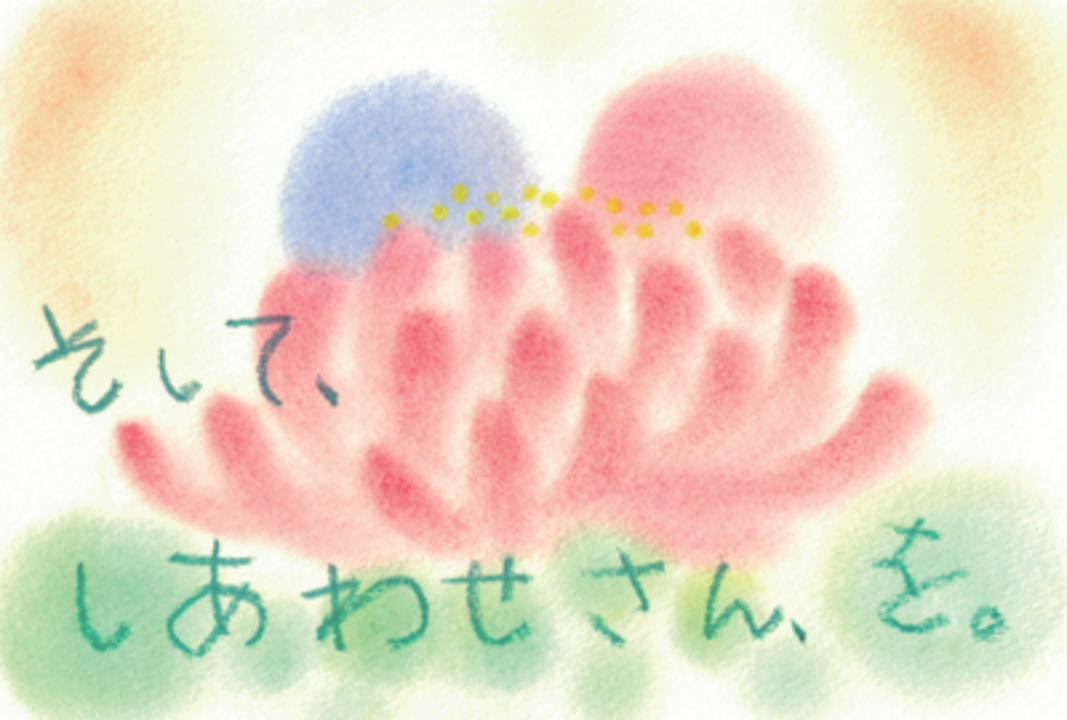
なかよしさんには
ともだちが
たくさん。
いっしょに
いるだけで
ともだちを
ひきよせます。


たとえば、
よろこびさんを。

ときどき

あんしんさん、を。




そして、
しあわせさん、を。

だけど
なかよしさんは
気まぐれ。

ふたりの
あいだに
すきま風が ふくと

すぐに
どこかへ
とんで
きえて
見えなくなります。

きらいな
だれかが
近づいてきたら



すぐさま



ふうっと

いなくなります。

どちらか
ひとりのこころに
イライラさんがきたら
こっそりと。

ワガママさんがきたら
いちもくさんに。

イバリンボさんが
いると
あっという間に。

ほら
なかよしさんは
消えてしまうのですね。

ふたりは



ひとつで

なかよしさん。

そう

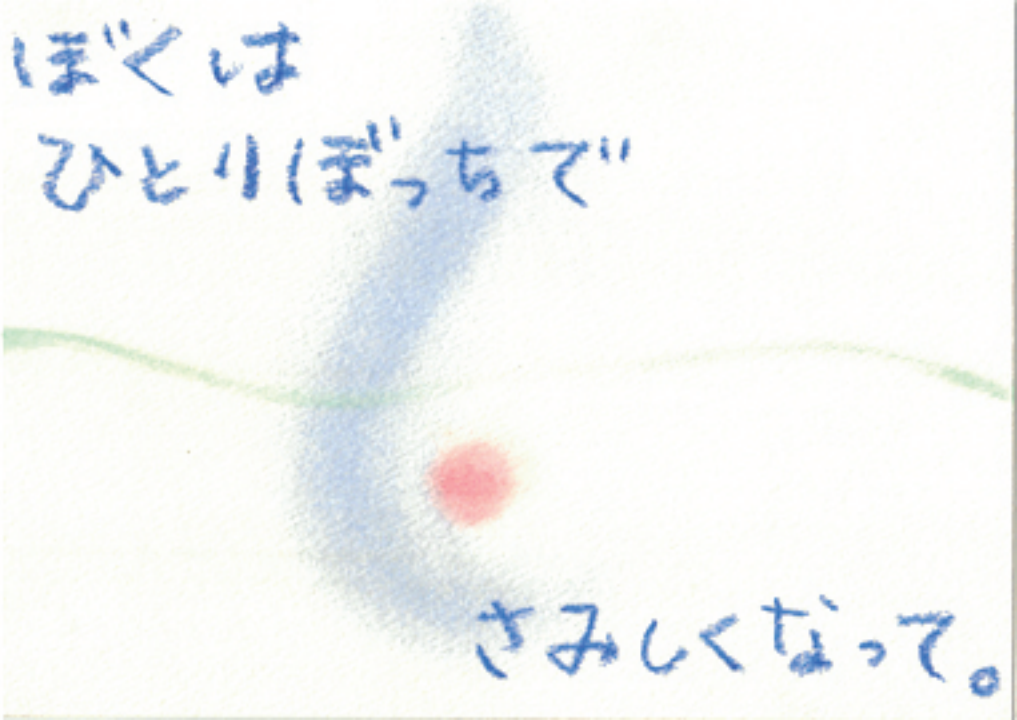
ふたりが

バラ バラになると

なかよしさんでは

なくなってしまいます。

よろこびさんも
あんしんさんも
しあわせさんも。
みんな
どこかへ
行ってしまって。


ぼくは
ひとりぼっちで
さみしくなって。

ぼくは
涙がでてきて
かなしくなって。

なかよしさんに
帰ってきてもらうには
ふたりが
魔法をかけなきゃ
だめなんです。

とっても
かんたんだけど
とっても
むずかしい。



ふたりの
合ことば。


それは
ごめんね。
そして
ありがと。

どちらが
さきでも
いいのです。

それは
ふたりの
ごめんねで、
それは
ふたりの
ありがとです。




いますぐじゃなくても
何十年後
でもいいんです。

いつか
ごめんねは、
おかえりに
聞こえます。

いつか
ありがとは、
あいしてますに
聞こえます。

そして
ふたりは
なかなおり。

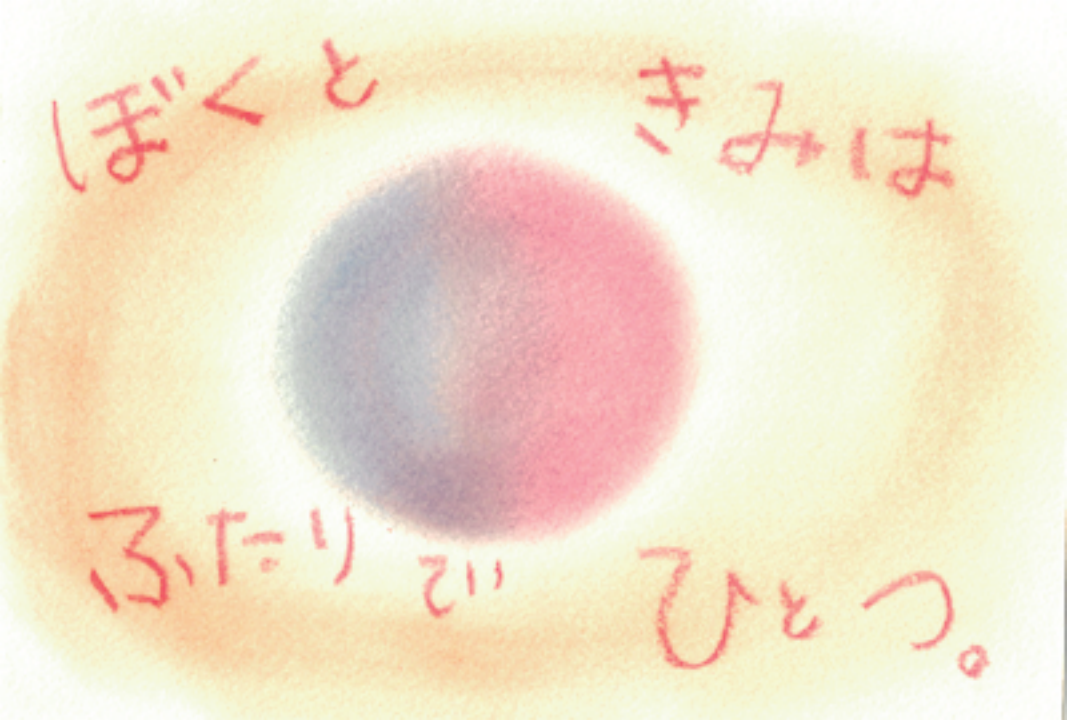
おかえりと

あいしてますが



ふたりの こころに

ちゃんと ある。


ぼくと きみは
ふたりで ひとつ。


ぼくと きみは
以前より もっと
なかよし さん。

おわり。

あなたとあなたのたいせつなだれかとのあいだに、
ずっとなかよしさんがいつづけてくれますように。
そんなおもいをたっっぷりとこめてつくりました。
なかよしさんをたいせつなあなたにもプレゼント。

絵：中口美代子
文：吉井 春樹